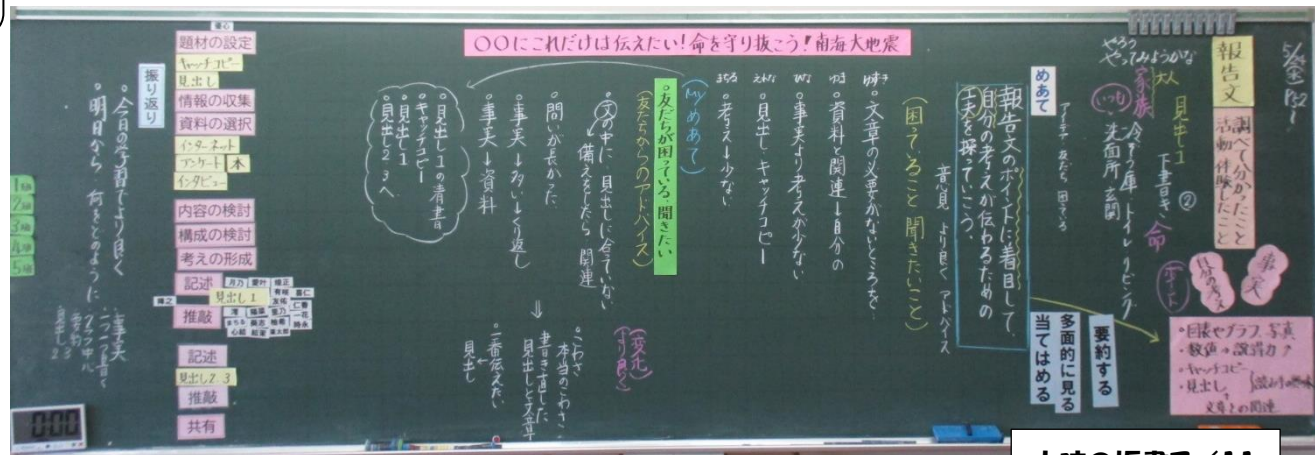


今年度、最初の国語科の研究授業を大野先生に行ってくださいました。本単元では、「自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて防災を呼びかけるポスターを作る」という単元ゴールを設定していました。本時は、7/11時間目です。自分の伝えたい文章と資料がつながっているかなど、自分の課題を友だちとの対話を通して再考していく学習でした。本時の授業と事後研究の様子をお知らせします。

**単元名** 「〇〇にこれだけは伝えたい！命を守り抜こう！南海大地震」全11時間  
**教材名** 「防災ポスターを作ろう」(東京書籍) 6年2組 大野 香奈 先生  
**本時の目標**：自分の考えが伝わるための工夫を理解し、友だちとの交流を通して、自分の文章に生かすことができる。  
**本時における見方・考え方**：事実と自分の考えの繋がりを意識しながら、文章の筋道を整えたり、本や文章などから必要な語句や文を抜き出して書いたりしている。



本時の板書7/11



資料と文章が関連づいているのか考えています。



見出しと自分の一番伝えたいことが関連づいているか考えています。

### 大野先生による授業のリフレクション

授業に向けて、まず、学級活動の防災の授業後、南海地震について誰に知らせたり、教えたりしたいのか相手意識が持てるようにノートに書き残しておき、後日、国語の導入の時間にその学習を振り返り、再度、相手意識をはっきりさせるようにしました。また、情報の収集や選択については、朝読書、給食時の読書の時間にも関連図書を読み、収集し、選択していくことも取り入れていきました。

今回の授業では、中村小学校で系統的に取り組んできた授業をできる限り取り入れ、言葉の宝箱や思考スキル、対話のさせ方の提案や、個々のめあてを持ちながら授業に臨める子どもを目指していること等の提案を行い、協議で意見を聞かせていただきながら今後の授業に生かそうとっていました。特に、書く単元には、教師が意図を持ち、何度も書かせ、読ませ、書かせるサイクルと、語彙を増やしたり広げたりできるチャンスが多く含まれていると思って、相談をしながら今回の授業形態にしてみました。

### 授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

- 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習活動の設定**
  - 話し合い活動の目的がはっきりしており、子ども達の対話がよくできていた。
  - 話し合い活動の間に、中間指導を入れて目的に帰りながら軌道修正を行ったり、グループを変えるなど対話形式の工夫を行ったりしていたのがよかった。
  - ▼導入がもう少し短くてもよかった。
  - ▼友だちから学ぶには、もう少し話し合う時間の確保があればよかった。
  - ▼発言に少し偏りが見られた。
- 2 児童が本気になる問題や課題の工夫**
  - 「my めあて」を立てることで、子ども達が本気になる授業となっていた。
  - 単元構想がはっきりしており、思考スキルの活用をしたことで、子ども達が何を目指して取り組んでいけばいいのか明確であった。
- 3 「言葉による見方・考え方」を働かせるための手立てや働きかけ**
  - 「言葉の宝箱」を子ども達が自主的に見ようとする姿があり、これまでの言葉にこだわった指導が伺えた。
  - テンポと発問の仕方がよかった。
  - ▼「よりよくする」とは、どういうことかの押さえや書くことのゴールをどうするのが難しい。
  - ▼書く量が短いのではないかと。

### 間指導主事より(本単元・本時の学びのポイント)

- 授業改善プランから
  - ①本気になるめあての設定→他教科との関連
  - ②言葉のよさ・対話活動→言葉の追究
  - ③次の学びにつなげる→学びや成長の自覚
- 授業について
  - ・めあてを立てる際、前時を振り返って困り感と課題意識を持たせていたのがよかった。教師に言われたことをやろう…にならないようにする。
  - ・困っていることは言えていたが、書いている文章を使って改善したいところを具体的に説明できると、より話し合い活動が焦点化する。文章を読むことに時間がかかってしまっていた。
- 講話「今求められる」資質・能力を育成する授業づくり—国語編—より
  - ・資質・能力(知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成と学びに向かう力、人間性等の涵養)の三つの柱を一体的に育成しながら、“生きて働く”知識及び技能を身に付けた子どもを育成する。そのためのポイントは、①教材から活動の必然性や目的を待たせる場面を設定する、②子どもとのやり取りから問いをもたせること、③既習を引き出すこと、④いつでも使える一般的な表現でまとめる(一般化)こと、⑤活用する新たな場面を設定することである。

これまで中村小学校で研究を積み重ねてきた国語科の授業を共有するため、大野先生の授業では、言葉の宝箱や思考スキルの活用、対話のさせ方などを意図的に取り入れた授業提案をしていただきました。また、個別にめあてを持たせ、「書くこと」の学習過程を児童が主体的に進めたり、戻ったりしながら学習していく姿は、今求められる個別最適な学びと協働的な学びにつながるものであると思います。どのような授業を目指すのか大野先生の授業からたくさん学びがあったと思います。その学びから、日常の国語科の授業改善に生かしていきたいと思います。